

図書館教育研究部

1 本年度の研究主題

読書活動をとおして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。
サブテーマ

学校図書館のもつ教育的機能のうち、特に読書センターの充実・推進に関する取組を工夫する。

2 研究組織

部会長	野々垣照美 (東綾)				
副部会長・会計	角野 晴彦 (伊根)				
事務局長	久保 正典 (和知)				
専門研究員	久保 正典 (和知)	船越 寿子 (八田)	小谷美佐子 (和田)		
地域部長	相 楽 片山 千鶴 (泉川)	綴 喜 河野 弘子 (田辺)			
	城 久 吉松 佑哉 (城陽)	宇 治 宮城 望 (西小倉)			
	乙 訓 佐藤 俊介 (長岡二)	亀 岡 丸山 知美 (詳徳)			
	南 船 久保 正典 (和知)	綾 部 船越 寿子 (八田)			
	福知山 宮越 舞 (成和)	舞 鶴 小谷美佐子 (和田)			
	与 謝 太野垣 壘 (宮津)	京丹後 奥野 哲也 (大宮)			

3 研究の概要

(1) 事務局会議

地域部長会に先がけ事前に打ち合わせを行い、地域部長会での提案進行、情報発信及び研究推進の核として、部会を先導した。

(2) 地域部長会

ア 第1回 6月30日(木) 亀岡市交流会館

- 組織体制、専門研究員の紹介、年間事業方針・研究主題等の確認、事業計画等
- 本年度開催「第39回京都府学校図書館研究大会乙訓大会」について
レポートは与謝地域が担当する。運営は乙訓が担当する(別途実行委員会立ち上げ)。コロナ禍であるため、授業公開は行わず半日開催とする。
- 第68回青少年読書感想文全国コンクールへの参加・応募について
- 各支部または地域部長からのお勧め本の紹介交流
- 地域交流、感想文コンクールの取組予定

イ 第2回 10月13日(木) 亀岡市交流会館

- 第68回青少年読書感想文全国コンクール応募作品の府審査、12地域から選出されてきた63編より12編を選出した。※11/4府市私合同審査会に事務局員参加

ウ 第3回 12月9日(金) 亀岡市交流会館

- 読書感想文、府市私合同審査会の内定結果報告(12編中9編が入賞)
- 活動のまとめ、読書感想文集の作成、次年度研究テーマの検討、地域交流
- 各支部または地域部長からのお勧め本の紹介
- 実践発表：図書館ビフォーアフターの続編 専門研究員 船越 寿子
図書館教育研究部綾部支部の取組 -綾部中学校編-

4 第39回京都府学校図書館研究大会乙訓大会

(京都府中学校教育研究会図書館教育研究大会兼ねる)

(1) 主題 ICT導入が急加速する教育の今日的状況の中で、学校図書館の存在意義と教育的価値を再構築しよう

(2) 日時 令和4年10月21日(金) 12:45~16:30

(3) 会場 長岡京市立中央公民館

(4) 主催 京都府学校図書館協議会

京都府小学校教育研究会図書館教育部
京都市小学校教育研究会図書館教育部
京都府中学校教育研究会図書館教育部
京都市中学校教育研究会図書館教育部
京都府私立小学校連合会学校図書館部会
京都府私立学校図書館協議会

(5) 日程

12:45 全体会

13:15 記念講演

15:00 校種別部会(授業報告/提案発表)

16:30 閉会

- (6) 全体会
 開会行事 挨拶 第 39 回京都府学校図書館研究大会会長
 小長谷 麻美 (与謝野町立加悦小学校長)
 祝辞 京都府教育委員会教育長
 京都市教育委員会教育長
 基調提案 第 39 回京都府学校図書館研究大会運営委員長
 長谷川 泰三 (京都府立西乙訓高等学校長)
 記念講演 講師 作家 澤田 瞳子 様
 演題 「歴史を物語にすること」
 閉会行事 挨拶 第 39 回京都府学校図書館研究大会副会長
 野々垣 照美 (綾部市立東綾中学校長)

- (7) 校種別部会 (中学校部会)
 授業報告「図書とタブレットを活用した授業を創る」
 向日市立寺戸中学校 梅原ちづる
 提案発表「読書活動をとおして、豊かな心を育てる～与謝地域の取組～」
 宮津市立宮津中学校 太野垣 壘
 「図書館における小中連携」 京都市立梅津中学校 中村 浩恵
 質疑応答・協議
 指導助言 京都府教育庁指導部学校教育課 福知 泰輔 指導主事

5 成果と課題

- (1) 学校図書館の運営や生徒図書委員会等の活動について、各支部で工夫している取組を交流することができた。
- (2) 第 68 回青少年読書感想文コンクール京都府大会に、全ての学校が参加し、府市私合同審査会に応募し、12 編中 9 編が入賞した。各支部・各校で趣旨を理解いただき、教科や図書館教育担当者の熱心な指導の成果と考えている。
 本年度は、府立支援学校中学部 1 校から参加有り。次年度は支部審査の日程等周知することを申し送る。
- (3) 専門研究員の実践から、読書活動を推進するための学校図書館づくりの取組について学び合った。
- (4) 学校図書館の学習センターとしての機能が期待されている。教科等で学習センターとしての学校図書館活用を促進するため、地域部長会での協議内容を各支部に伝達し、蔵書や読書環境の改善・充実を図ることが必要である。
- (5) コロナ禍であったが、開催地乙訓地域の協力により第 39 回京都府学校図書館(SLA) 研究大会(京都府中学校教育研究会図書館教育研究大会兼ねる)が成功裏に終了した。参加者は 138 名であった(中学校部会の参加者は 36 名)。提案発表を担当した与謝地域は複数年の実践を報告。「心に響いた本・言葉集」の作成・活用の実践は、生徒たちの読書意欲の喚起につながる実践であった。与謝地域としての取組が充実しており地域全体の図書館教育の充実がうかがえた。また、授業公開にかわる寺戸中学校の授業報告は、国語科の実践であった。今後、推進すべき「図書館を学習センターとして活用する」視点及び、「タブレット端末と読書のベストミックス」等を考える課題提起となる報告であった。
- (6) 次年度は、主題(サブテーマ)「読書活動をとおして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。～学校図書館のもつ教育的機能をいかし、読書活動の充実・推進に関する取組を工夫する～」に基づいて取り組む。研究大会の実施は行わない年度となるが、主題(サブテーマ)にせまる実践を行っていく。

1 研究主題

読書活動を通じて、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていくために、学校図書館の機能を充実させる。

2 活動方針

ア 各校の図書室運営等についての交流を図り、読書活動を推進するとともに、図書室利用の一層の活性化を図る。

イ 読書感想文コンクールの審査を行うとともに、読書指導の質的向上を図る。

ウ 読書センターとしての機能向上のための方策を全校で実施する。

3 活動内容

(1) 第1回主任会 6月15日

ア 令和4年度事業計画作成

イ 第68回青少年読書感想文コンクールの選考についての概要

ウ 各校の交流(図書室の運営方法、図書委員会の取組、司書やボランティアの活用等について)

(2) 第2回主任会 9月29日

ア 第68回青少年読書感想文コンクールの審査

イ 府中研からの報告と令和6年度の発表について

(3) 第3回主任会 2月15日

ア 府中研からの報告等

イ Formsによる図書館アンケートの報告

ウ 各校の交流(図書委員会の取組、司書やボランティアの活用等について)

エ 来年度の活動について

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

ア コロナ禍での各校の図書室の運営方法、図書委員会の取組、司書やボランティアの活用等について交流し、自校の図書室運営や委員会活動の参考とすることができた。

イ 読書感想文の審査を行うにあたり、審査の観点や基準を交流し読書感想文でどのような指導が必要かを考えることができ、良い審査が行えた。

ウ Formsを利用し、読書や図書館に対する生徒の意識調査を実施することができた。また、その結果を交流し読書活動における相楽ブロックの課題を考えることができた。

(2) 課題

ア 読書活動を通じて、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていくために、より積極的な地域交流を図る必要がある。

イ 司書やボランティア等、府立図書館や地域の図書館と連携して、子どもたちの読書環境を整え、学習センターとして機能も高めていく。

ウ 読書感想文の指導体制や指導法を交流し、言葉の力を高める取組にできるようさらに研鑽を重ねる。

エ アンケートを実施することにより判明した、読書活動における相楽ブロックの課題を解決する研究主題を設定し、その実現に向けた方策を実施していくよう検討する。

1 研究テーマ

「読書活動を通して、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。」

活動の重点

- (1) 読書する習慣や感想文指導の充実を図り、質の高い作品を生み出す研究を行う。
- (2) 学校図書館司書との連携の在り方を探り、より充実した図書館の運営について研究する。
- (3) 読書センターとしての充実・推進に関する取組について研究する。

2 活動内容

(1) 5月24日(火) 第1回主任会(八幡市立男山東中学校)

- ア 部長・副部長の決定
- イ 年間活動計画の確認

(2) 9月30日(金) 第2回主任会(京田辺市 北部住民センター)

- ア 読書感想文審査会
- イ 各校の実践交流

(3) 1月17日(火) 第3回主任会(八幡市立男山東中学校)

- ア 地域部長会報告
- イ 年度総括
- ウ 各校の実践交流

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア 各校の実践交流から、コロナ禍における図書室の運営の仕方や注意すべき点、朝読書の取組、図書委員会の取組について学び合うことができた。
- イ 読書感想文の審査会を行い、読書感想文指導の方法や読書感想文を書く意義など、多岐に渡り、交流し合うことができた。

(2) 課題

- ア 感染症対策をとりながら図書室の開室を続けることについては、ガイドラインの決定など地域として統一した形で行っていくことが望ましいが、各校の規模や利用状況も異なるため、実際には難しい現状がある。
- イ 学校図書館司書との連携の在り方や取組み例について交流し、よりよい図書館運営について検討する機会をもつ。
- ウ タブレットの導入により、「調べ学習の場」よりも、「読書を親しむ場」「本に出会う場」としての図書室の在り方を考えていく。

- 1 研究テーマ
読書活動を通して豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる
- 2 活動内容
 - (1) 活動の概要
 - ア 第68回青少年読書感想文コンクールの審査
 - イ 各校の読書教育・学校図書館の開室状況の交流と研究
 - ウ 校内研修会の実施状況の交流と研究
 - エ 巡回図書など市町立図書館との連携
 - (2) 活動の記録

7月 主任会	部長・副部長の決定、研究主題の設定、年間事業計画の作成、各校活動の交流
9月 主任会	地域部長会報告、各校活動の交流、第68回読書感想文コンクール審査会
1月 主任会	地域部長会報告、各校活動の交流、今年度のまとめ
- 3 本年度の成果と課題
 - (1) 成果
 - ア 第68回青少年読書感想文コンクールに積極的に参加することができた。
 - イ 各校の開館状況、感染症対策、委員会活動や校内研修会等について交流することで、相互の活動の参考にすることができた。
 - ウ 全ての学校で、継続的に朝の読書に取り組むことができた。
 - エ 学校図書館の来室者数、読書数を増加させるための取組を交流することができた。
 - オ 巡回図書など市町立図書館との連携をとることができた。
 - (2) 課題
 - ア 朝読書について、読書に取り組めない生徒への具体的な援助の工夫を研究していく必要がある。
 - イ 生徒の読書活動や図書館の利用を活発にするための、具体的な支援・指導方法を考えていく必要がある。また同時に、生徒を多様な本と出会わせ、読書の幅を広げるための具体的な活動も検討すべきである。
 - ウ 「学習センター」としての機能を果たせるよう、図書館資料を活用した授業を推進する。そのために、市町立図書館や府立図書館と連携を深め、活用しやすい資料を収集する。
 - エ 学校図書館の「情報センター」としての在り方を研究する必要がある。
 - オ 各校で図書館資料の利用指導等について校内研修会の在り方を検討していく必要がある。
 - カ 学校図書館司書との効果的な連携の在り方を工夫していく必要がある。

1 研究テーマ

読書活動を通して、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。
～学校図書館のもつ教育的機能のうち、特に読書センターの充実・推進に関する取組を工夫する～

2 活動内容

- (1) 「読書感想文コンクール」の取組と審査会の実施
- (2) 各校の活動交流と課題解決に向けての研究協議
- (3) 学校図書館運営、及び読書指導に関する研修

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・各校でコロナ対策を踏まえながら「読書指導・読書活動」を推進した。
- ・学校司書の巡回頻度が上がり、連携を深められた。
- ・昨年は見合わせが多かったが、本年度は選書会を工夫しながら開催することができた。

(2) 課題

- ・読書感想文コンクールへの取組が消極化傾向に有り、解決への手立てを模索中である。
- ・良書提供のための「廃棄・除籍」作業が難航している。
- ・コロナ禍における指導・活動の工夫を検討する必要がある。
- ・タブレットをはじめ、ICT機器の導入に伴い、調べ学習などでの図書の使用頻度が落ちている。
- ・読書感想文審査会の日程を、各校の行事を鑑みて決定する必要がある。

1 研究テーマ

1. 生徒の興味・関心を喚起する読書指導及び、学校図書館設備のさらなる充実について研究・実践を進める。
2. 調べ学習等、学習活動を支援する学校図書館運営・学校図書館環境の整備と図書の充実を推進する。
3. 教科や領域及び、図書館司書や図書館支援員、公共図書館と連携した実践・交流を進める。
4. 令和4年度京都府図書館研究大会の運営

研究内容

1. 読書・学習情報センターとしての指導方法や設備拡充の研究・交流
2. 学校図書館の運営方法や委員会活動等の実践交流と研究
3. 公共図書館と委員会活動を通じた交流
4. 国語科と連携した読書感想文の指導と乙訓読書感想文の充実
5. 朝読書や読書量等について、各校、地域の実態の交流
6. 各校推薦図書の交流と貸出図書等のデータ化の継続
7. 令和4年度京都府図書館研究大会へ向けての準備

2 活動内容

9月

第1回部長会

読書感想文コンクール応募作品の乙訓地域の審査
各校の実践交流（朝読書、選書会、感想文指導、コロナ禍での図書室の運営等について）
京都府図書館研究大会運営について

10月21日

京都府学校図書館研究大会に参加

各校1名参加、授業報告 寺戸中学校 梅原ちづる教諭

1月（紙面報告）

第2回部長会

地域部長会の報告（京都府読書感想文コンクールの結果報告）
乙訓読書感想文集の発行について
各校の実践交流（各校の来室数、及び貸出数について）
本年度の活動のまとめ

3 本年度の成果と課題

(1)成果

- ア 学校図書館運営、選書会、朝読書、委員会活動等、読書を推進するための指導方法や調べ学習の実態の交流から互いに学び、各校の実践に生かすことができた。
- イ 京都府図書館研究大会の準備・当日の運営についてスムーズに行うことができた。
- ウ 国語科と連携して読書感想文の指導を行い、懸念された乙訓感想文集を発刊することができた。

(2)課題

- ア 地域部長や各校の部長が交代した場合の前年度の引継ぎと、本年度の流れ等の引継ぎがスムーズに進められず、本年度の活動に影響があった。
- イ 生徒の興味・関心を喚起する読書指導の実践をより充実させ、実践の交流を進めていく。
- ウ 他教科や他領域、地域の公共図書館との連携、及び、「読書センター」「学習情報センター」としての機能を充実させる学校図書館の利用方法の研究。
- エ 読書感想文の事前指導方法についての交流を進め、各校の実践に生かしていく。
- オ 感染対策の徹底と図書館運営の方法の研修・交流をすすめていく。
- カ 乙訓読書感想文集の作成と発刊について研修し、見直しを含めて議論・交流をすすめていく。

1 研究テーマ

「学びを育て、豊かな心を育てる図書館教育のあり方を考える」

- (1) 読書意欲、読書力を育成する。
- (2) 朝読書を充実させる。
- (3) 校内研修を実施する。
- (4) 図書館の有効活用について研究する。

2 活動内容

- (1) 本年度の研究重点、年間計画、アンケートについて（5月23日）
- (2) 亀岡市八中学校読書アンケート（一学期に各校実施）
- (3) 亀岡市読書感想文審査会及び図書主任会（9月26日）
- (4) 生徒会図書部員交流会（3学期 実施方法を合わせて検討中）
- (5) 読書感想文集の作成（2月 実施予定）
- (6) 本年度総括（2月 実施予定）

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア 読書アンケートを本年度も継続して実施し、図書主任会や各校の研修の資料として蓄積することができた。実施の方法もロイロノートやForms、プリントなど各校の取り組みやすい方法で取り組めた。
- イ 図書館運営の交流をすることができた。主任会を通して、各学校の実態・実情に合わせた工夫を交流し、各校の実践に生かすことができた。
- ウ 読書感想文の審査会から、亀岡地域の読書感想文の今後の課題など検討することができた。
- エ 生徒会図書部員交流会の実施方法を検討することで、交流会のねらいや各校の生徒会図書委員会の現状を交流することができた。
- オ 亀岡地域における一校が閉校することに伴い、図書室の本の移動について交流することでどのような問題点があるのか共有することができた。

(2) 課題

- ア 朝読書の継続とさらに充実させるための取り組みの検討と各校での校内研修の実施が必要である。
- イ 読書アンケートの継続と生徒会図書部員交流会実施の検討していく。
- ウ 学習センター・情報センターとしての学校図書館の在りようについて模索したい。
- エ ロイロノート・Teamsなど学校間のネットワークを構築していきたい。

1 研究テーマ

生徒に付けさせたい力：豊かな人間性、主体的に考え判断できる力
活動方針：豊かな心を育み、ことばの力を高めるための図書館教育を追求する。
主体的に考え、判断できる生徒を育てる。

2 活動内容

- 4月27日 第1回部会（京丹波町立瑞穂中学校）
令和4年度活動方針・研究主題等の決定
読書感想文コンクール作品募集について
読書感想文集の位置付け・共通確認事項について
各校図書館教育の実践交流
（図書室運営・新型コロナウイルス感染防止対策などについて）
- 10月6日 第2回部会（京丹波町立蒲生野中学校）
第68回読書感想文コンクール南丹・船井ブロック審査会
（地域内9中学校から全26点出品）
各校図書館教育の実践交流
（読書活動推進、読書感想文指導、新型コロナウイルス感染防止対策などについて）
- 2月14日 第3回部会（京丹波町立蒲生野中学校）
令和4年度の活動の総括
文集「南丹・船井図書館教育の歩み」（読書感想文集）作成
各校図書館教育の実践交流
（図書室運営、今年度次年度の課題などについて）

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 各校の実践や図書室の実態等を交流し、自校の実践を振り返り、図書館教育の充実を図ることができた。
- イ 読書感想文コンクールの取組について、各校の事情を踏まえた上で、地域全体として統一した指導を行うための共通確認ができた。
- ウ 朝読書や図書室の円滑な運営などの取組により、読書習慣の定着、利用者や貸し出し冊数の増加につなげ、読書への意欲を高めることができています。
- エ 読書感想文審査を通して南船の代表を選出するとともに、読書感想文の取組における指導や実施方法の工夫について交流し、研修することができた。
- オ 読書感想文集の作成について確認し、「各校の実践を地域内の全中学校に広げ、広く読書について啓発するための文集」と位置付けることができています。

(2) 課題

- ア 他地域や近年の新しい図書室運営の実際や取組を交流し、幅広く読書指導についての研鑽を深める。
- イ 図書館教育について、各校で行う職員研修の企画や実施内容を充実させるための研究が必要である。
- ウ 読書感想文指導の在り方や実施方法、その選定や審査などに関する研究を進める。

1 研究テーマ

学びを広げる 言葉を育む 学校図書館

～いつも行きたくなる場所 いつまでも居たくなる場所として、魅力ある図書館づくりを目指す～

2 活動内容

(1) 綾部市学校教育研究会春季研究会 図書館教育部会 (5月11日)

ア 本年度の研究・計画について

(2) 綾部市学校教育研究会夏季研究会 図書館教育部会 (8月17日)

ア ミニ研修「図書室ビフォー・アフターについて」

イ 綾部中学校「図書室ビフォー・アフター」の実施

ウ 読書感想文コンクール審査について

(3) 綾部市中学校読書感想文審査会 (9月26日)

(4) 舞鶴地域図書館教育部との連携

ア 八田中学校 学校図書館見学

イ 学校図書館の運営について (ミニ研修・ワークショップ)

3 今年度の成果と課題

(1) 成果

- ・ 個人の実践ではなく、チームとして継続して学校図書館の環境整備、廃棄図書の選定に取り組むことで図書館教育の運営や役割について深く学ぶことができた。
- ・ 綾部市の実践を府内の中学校に紹介することで、他の地域にも学校図書館の運営のノウハウを共有し、より良い学校図書館づくりを目指すことができた。

(2) 課題

- ・ 学校図書館の「読書センター」としての環境整備を継続すると共に、「学習センター」「情報センター」としての機能も活用できる運営方法を学ぶ必要がある。
- ・ 学校図書館の教育的価値について、図書館教育部員以外の教職員にも積極的に発信していきたい。



- 1 研究テーマ
豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる。
～読書センター機能を充実させ、読書活動推進に関する取組を進める～
- 2 活動内容
 - (1) 7月5日 第1回図書館教育研究部会（電子メール）
 - ア 地域部長会報告
 - イ 研究主題、年間計画の提案
 - ウ 第68回青少年読書感想文コンクールについて
 - エ 読書指導、図書館運営、感染症予防対策等の交流
 - (2) 9月26日 第2回図書館教育研究部会（成和中学校）
 - ア 読書感想文一次審査(福知山地域【10校37点】から6点選出)
 - イ 選定図書、図書館運営の交流
 - (3) 2月中 本年度の総括
- 3 今年度の成果と課題
 - (1) 成果
 - ア 各校の実態に合わせて図書館運営を行っている。また、コロナウイルス感染症予防対策も各校工夫を凝らし開館実施できた。また、学校司書との連携ができた。
 - イ ほとんどの学校で毎日朝読書や昼読書が実施できた。
 - ウ 府読書感想文コンクールに応募し、福知山支部として一定の評価を受けることができた。
 - (2) 課題
 - ア 図書館を利用する生徒が少ない学校がある。各校の実態に応じた図書館運営の在り方を再検討し進める必要がある。（学校司書との連携や図書委員会の活動、教科指導での利用など）
 - イ 読書活動推進を目指した図書館運営を追求するため、学校間の交流をさらに進める必要がある。
 - ウ 図書管理、図書の廃棄の観点から、電子化を全ての学校が強く希望している。（※電子化＝バーコードによる図書管理を指す。現状は手入力による図書管理、カード記入による貸出処理）部会の交流だけに止まらず、具体的に導入予算と導入にあたる手間等を含めて検討し、導入の必要性を伝える必要がある。

1 研究テーマ

「読書活動をととして、豊かな心を育て、ことばの力を高めるために学校図書館を充実させる」

方針

- (1) 各校の活動状況を交流し、学校図書館の充実を図る。
- (2) 読書を広げるための啓発活動を各校で推進する。
- (3) 図書館教育及び読書活動に関する研修内容を検討し、実施する。
- (4) 国語科と連携し、読書感想文コンクールに向けて指導の充実を図る。
- (5) 「主体的・対話的深い学び」の充実を目指すために、図書とICTを活用した取組や授業を実践する。

2 活動内容

- (1) 第1回図書館部会（4月20日）
 - ア 研究活動方針・内容の決定
 - イ 各校の取組の交流
- (2) 第2回図書館部会（9月27日）
 - ア 第67回青少年読書感想文コンクールの審査
 - イ 研修会の内容について
 - ウ 各校の取組の交流
- (3) 第3回図書館部会 研修会（2月24日）
 - ア 綾部市立八田中学校での図書室運営について
 - イ 綾部市の取組
 - ウ ポップ作り

3 本年度の成果と課題

- (1) 成果
 - ア 図書室の開館・利用状況、委員会活動、購入図書の選定、朝読書の実施状況等、図書館の運営や利用、生徒の読書活動に関わる取組についての交流を図り、各校の実践に活かすことができた。
 - イ 国語科と連携して、読書感想文コンクールに取り組むことができた。2作品が京都府京都市合同審査会に進むことができた。
 - ウ ICTを使って、各校の図書委員による本の紹介ができた。
- (2) 課題
 - ア 読書活動を一層充実させるために、幅広く読書指導についての研究を進める。
 - イ 読書感想文の書き方指導についてさらに交流し、学び合うことをしていきたい。
 - ウ 地域の図書館との連携を図り、ICTと書籍を効果的に使うことで生徒たちの学びを深めていきたい。
 - エ 情報センターとして、図書室をどのように機能させるかを今後も検討していく。

1 研究テーマ

読書活動をとおして、豊かな心を育てる
～読書意欲を喚起させるための学校図書館の充実～

2 活動内容

(1) 研究部総会・第1回部会 4月13日(木)

- ア 活動方針(研究テーマ)の設定
- イ 事業計画の作成
- ウ 予算計画の作成

(2) 第2回部会 6月3日(金)

- ア 「心に響いた本・言葉集」について
- イ 府中研レポート発表に向けて

(3) 第3回部会 8月4日(木)

- ア 府中研レポート発表に向けて
- イ 「心に響いた本・言葉集」について
- ウ 読書感想文審査会について

(4) 第4回部会 9月27日(火)

- ア 読書感想文審査会
- イ 「心に響いた本・言葉集」の編纂

(5) 第39回京都府学校図書館研究大会 中学校部会提案発表 10月21日(金)

「読書活動をとおして、豊かな心を育てる～与謝地域の取組～」

(6) 第5回部会 2月7日(火)

- ア 今年度のまとめ・来年度に向けて
- イ 読書感想文集の作成
- ウ 各校の実践交流

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア 研究大会において、与謝地域の提案発表を行い、他地域との交流を図ることができた。
- イ 「心に響いた本・言葉集」の作成を通し、生徒のニーズに合った図書を採択することができた。また、各校において、「心に響いた本・言葉集」を活用した取組を行ったり、図書室の掲示・装飾を工夫したりすることができた。
- ウ 与謝地方中学校読書感想文集を発行し、優れた読書感想文を交流することができた。

(2) 課題

- ア 読書意欲を更に喚起していくために、各校の実践を交流し、自校の取組に生かす。
- イ 「心に響いた本・言葉集」の改善、活用方法について今後も検討していく
- ウ 生徒が自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的に環境整備を推進していく。本に親しみが持てる、通いたくなる図書室の在り方を考えていく。

1 研究テーマ

「豊かな心を育て、言葉の力を高めるために学校図書館を機能させる。」
～各校の取組を交流し、読書活動を推進する～

2 活動内容

(1) 5月6日 第1回図書館教育部会〔峰山中学校〕

- ア 部長選出
- イ 研究テーマ、活動計画、予算案作成

(2) 6月24日 第2回図書館教育部会〔大宮中学校〕

- ア 読書アンケートについて
- イ 読書感想文について
- ウ 支部推薦図書との交流

(3) 9月27日 第3回図書館教育部会〔大宮中学校〕

- ア 読書感想文コンクール京丹後市代表作品の選考
- イ 地域部長会の報告

(4) 1月13日 第4回図書館教育部会〔大宮中学校〕

- ア 読書感想文集の作成
- イ 地域部長会の報告
- ウ 年度総括

3 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ア アンケートを実施し、経年変化をまとめることができた。市内6中学校の読書への意識の向上がみられた。各校図書館利用率を上げるための取組等を交流できた。
- イ 京丹後市の読書感想文の選考については、審査基準をもとに選考することができた。
- ウ 部会において、支部推薦図書との交流が、購入図書の選定に役立てられた。

(2) 課題

- ア 昨今の事情により、地域図書館との連携についての交流が足りず、積極的な活動につなげることができなかった。
- イ 読書感想文が学習指導要領に則した形で教育効果を高められるよう、その在り方について検討していく必要がある。
- ウ 情報機器の普及により、調べ学習における図書館利用の機会が減ることに対し、調べ学習以外でも十分に活用していく方策を見出していく必要がある。